

# 和地ひとみレポート No.231

平成29年度 市長施政方針

大きな目標実現のために、何に重点を置くのか？

## ■平成29年“市長施政方針”

…2月23日から開会されている平成29年第1回市議会定例会の初日、尾崎市長による「平成29年度施政方針演説」が行われました。この施政方針演説とは、議会で翌年度の一年間の東大和市の（≒市長の）基本方針や政策についての姿勢を示すために行われる演説です。毎年1時間ほどかけて行われるこの施政方針演説では

「内閣府が示した経済報告をもとにした経済動向に対する認識」

「国と東京都の予算案に対する認識」等、

東大和市を取り巻く状況に関する認識が最初に示されます。

…その後「平成29年度の重要施策」について

『子ども子育て支援施策の充実』

『教育施策の充実』

『健康施策の充実』

『福祉施策の充実』

『環境施策の充実』

という5つのカテゴリーごとに、主な取組について示されました。続いて、第四次基本計画に沿って取り組む主な施策、平成29年度の予算案の概要が示され、最後に市長の“メッセージ”が述べられるという、例年通りの施政方針演説でした。

…施政方針で示される重要施策と主な施策については、そのカテゴリーの名称は違いますが(※)、おおむね、先日示された予算概要説明に挙げられていた施策となっています。(予算概要説明で示された施策については前号に掲載)

※重要施策のカテゴリーは上記5つ。

主要施策のカテゴリーは、以下の4つ。

「豊かな人間性と文化をはぐくむまちづくり」

「環境にやさしく安全で快適なまちづくり」

「相互の理解と協力に支えられるまちづくり」

「適正な行財政運営の実現」

## ■今回の施政方針演説の特徴は

…毎年、施政方針演説は、その内容が紙で配布されます。よって、過去の施政方針演説との比較が可能で、私は毎年、その内容の変化は必ずチェックします。

市政は、中長期的な大きな目標を目指して毎年の具体的な施策などを計画しているので、よほどのことがない限り、その方向性は変化しませんが、毎年、その内容を比較していると、市が世の中の変化にどのように対応しているのか、また、どのような点に重きを置いているのかが伝わってきます。

…前号で示した通り、平成29年度予算は5年ぶりに減少。大事業が終了したからというのが主な要因です。

しかし、今回の施政方針演説で示された重要施策と主要施策については、「昨年、もしくはその前から取り組んでいる事業」が重要施策、主要施策に多く盛り込まれています。そこにさらに新たな取組みが様々な分野で追加されているというのが、今回の特徴と感じました。新たなことに様々な取り組むことは積極的とも取れますが、予算も減少した中、どのように取り組むのか。言い換えると、どこを抑えて、どこに力を注ぐのかということが明瞭でない内容でした。新たなことのすべてが、国や東京都からの補助金などで行われるのなら良いのですが、市が直接負担する事業の場合、何かを減らさなければ、新たなことはできません。新しいこと、重点的に取り組むことを示すばかりではなく、抑制した点も同時に説明することも“方針”を示すためには必要です。

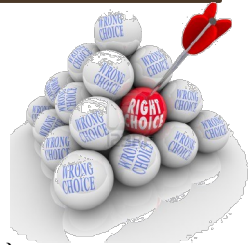
…さらに、最後に述べられた市長の言葉も、昨年度とは大きく変化していました。昨年は市民、市職員と共にまちづくりを進めていきたいという思いが感じられましたが、今回は実績を述べるにとどまっていた印象。その実績の先に向けて、どう進めるのか示してほしかったと思います。

## ■代表質問

…毎年、施政方針の内容に対しては「代表質問」が行われます。これは、各会派ならびに無所属の議員が行うものです。持ち時間制で会派の場合は所属議員数×10分を使用して会派の代表が質問をし、無所属議員は各人10分の中で質問することとなっています。(私は無所属のため持ち時間10分)

…また、代表質問は質問者がまとめて質問をし、それに対して市長がまとめて答えるという形で、そのやり取りは1回限り。よって、市長の答弁について、さらに質問をしたいと思っても不可能です。自分自身の答弁に対してだけではなく、他の会派や議員の質問に対する答弁を聞いていても、満足できる答弁ではないと感じるものもありますが、ルールなので仕方ありません。もう少し掘り下げたやり取りをしたかった場合は、次回以降の定例会の一般質問で取り上げるか、予算特別委員会で取り上げるしかありません。しかし、代表質問の答弁も議会で示されたという点では、その発言は重いものです。施政方針演説で示された内容からだけではなく、これらの答弁からも、市の姿勢や市長の思いのような“熱”の温度が感じられると思っています。

(裏面に続く)



## ■私が質問したのは

…代表質問に際し、様々、確認したいことはたくさんありましたが、10分という制限時間を考え、今回は大きく3点質問しました。その内容と答弁、そして、その答弁に対する私の感想は以下の通りです。

**質問1:**総論としてお尋ねする。「日本一子育てしやすいまちづくり」を重要施策に掲げて2年目となる29年度だが、活気ある持続可能なまちの実現に向けその大きな方向性は、賛同するところだ。しかし、今回の施政方針では、昨年から取り組んだ新規事業の継続も多く、加えて様々な分野において新たな取り組みに着手することが示された。積極的にチャレンジしているという見方もできる一方で、“総花的”な印象が否めない。市長の姿勢として示されている「あれもこれもではなく、あれかこれか」と、「日本一子育てしやすいまちづくり」を真に目指すという点において、予算配分や施策への取組においてメリハリが必要だと思うが、来年度の施策、予算全体の配分の整合性についての考えは。

### 【答弁】

平成29年度の施策と予算全体の配分の整合性についてであるが、施政方針において申し述べたように、重要施策として5つの施策に優先的に予算の配分を行った。その中でも「日本一子育てしやすいまちづくり」を目指すため、子ども・子育て支援施策に対して、重点的に予算を配分し、メリハリをつけたところだ。今後においても、少子高齢化の進展に伴う社会保障関係経費の増加や、公共施設等の老朽化対策などにより、多額の財政負担が見込まれていることから、「あれかこれか」の視点による施策の選択と重要事業への予算配分に努めていく。

⇒答弁に対する私の感想＝メリハリの“ハリ”だけを示すのではなく、“メリ”についても少しは触れるべき。重点的に予算配分をしたところがあるのなら、現実に沿って、削減したところもあるはずだが。

**質問2:**東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催については「生涯学習・生涯スポーツ推進計画」に基づき、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を視野に入れながら、各種事業を進めるとのことだが、事業の進め方は具体的にどのように変化するのか。また、学校教育において、来年度、オリンピック・パラリンピック開催を視野に入れて新たに進める事業は示されなかったがあるのか。

### 【答弁】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を視野に入れた事業の進め方だが、本市には、これまでスポーツ推進のための計画が無かったが、ここで平成29年度からの10年間を計画期間とする「生涯学習・生涯スポーツ推進計画」を策定できるみこみとなった。この計画においては「第4章：障害学習・生涯学習スポーツ推進事業」の中で、スポーツに関する具体的な取組を記載したので、今後は、この計画に基づき、毎年、進行管理を行っていく。

また、オリンピック・パラリンピック教育については、平成29年度も引き続き、全小・中学校において取り組んでいく。なお、平成28年度のオリンピック・パラリンピック教育の重点校として「障害者の理解促進」に取り組んだ小学校があることから、取り組み内容を全校に周知するとともに、取組を推進するよう指導・助言していく。

⇒答弁に対する私の感想＝社会教育でも取り組みの変化は何なのかが不明。また、学校教育に対しては、東京都教育委員会の“オリンピック・パラリンピック教育”で重点的に育成する5つの資質として、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」が示されている。5つの資質全体に対して取り組むべきだと考えるが、その点についての答弁はなかった。

**質問3:**観光事業の推進に関する事業の「うまかんべえ～祭」に対し、昨年はご当地グルメの開発を行うイベントとして方針が示されたが、今回の施政方針ではその点は示されなかった。「うまかんべえ～祭」の位置づけ、主要目的は変わったのか。また、位置づけ、主要目的が変わった場合、開催にあたって市が補助している390万円の意味合いはどのように考えているのか。そして、グルメ開発が主要目的でなくなった場合も、恒久的に開催するのか。

### 【答弁】

「うまかんべえ～祭」の当初の目的のひとつであった「これぞ東大和！」と呼べる「ご当地グルメ」の創出については、長期的な取り組みが必要なことから、実行委員会で審議され、現在では地元食材を活用した「創作グルメ」の味比べコンテストとして実施されている。市内での機運が醸成し「これぞ東大和！」と呼べる「ご当地グルメ」の創出に期待しているところだ。補助金については、「うまかんべえ～祭」は、市からの補助金と実行委員会が集める協賛金により運営されており、市の補助金については、会場設営費に充当されている。給排水の設備、衛生面の確保、会場の整備、そして全体の安全性について、これらを確実に実行する上では、現状では適正な執行であると考えている。開催については「ご当地グルメ」の開発は、「うまかんべえ～祭」からの創出に限らず、市民や飲食店などからの機運の醸成によって創出されるもので、長期的な取組が必要であると考えている。「うまかんべえ～祭」は、実行委員会が主体となり、食のイベントとして市内外から多くの来場者が集う交流の場として定着しており、交流人口の増大や賑わいの創出に、大いに効果を上げていることから、事業は継続していく必要があると考えている。

⇒答弁に対する私の感想＝「うまかんべえ～祭」は市長が初当選に際し行った所信表明で示した「ウルトラCグルメの開発」を受けて開始した事業だ。当初は「これぞ東大和！」と呼べる「ご当地グルメ」創出のために4回限定の開催としていたが、すでに6回開催。計画、位置づけ、目的を変えるなら、実行委員会に任せているとせず、率直に成果を振り返ったうえで変更してほしい。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

**「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」**  
【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外一般社会で挑戦しようとベンチャー企業(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員  
**和地 ひとみ**

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102